

【88】	正答	2, 5	II-1-12. 筋・骨格系—B. 骨・関節	第43回 A-1
------	----	------	------------------------	----------

Point 解説の要点：関節の形状

基本

【解説】

蝶番関節は、関節頭と関節窩がドアの蝶番のように組み合わせられており、一方向のみに曲げ伸ばしができるような構造をとる（単軸性関節）。このような動きをする関節は、2. 肘関節（正答）、5. 膝関節（正答）などがある（p.152・図II-1-127）。

4. 肩関節と股関節は球関節であり、あらゆる方向に可動域がある（p.152・図II-1-127）。
3. 手関節は楕円関節であり、数個の手根骨（関節頭）が橈骨と尺骨（関節窩）にはまっている。

正答 2

【89】	正答	誤-3	II-1-12. 筋・骨格系—D. 脊柱の構造	第44回 A-7
------	----	----------------	-------------------------	----------

Point 解説の要点：脊柱の生理的彎曲は頸椎から仙骨部まで前→後→前→後と彎曲している

基本

【解説】

1. 脊椎は7個の頸椎、12個の胸椎、5個の腰椎そして仙骨から構成される（p.153）。
2. 脊椎は垂直ではなく、力学的負荷を全椎骨に分散させるため彎曲している（生理的彎曲）。頸部は前彎し、胸部は後彎し、腰部は前彎し（正答）、仙骨部は後彎している（p.154・図II-1-131）。
3. 脊柱管は、椎体、椎弓根、椎弓に囲まれた空洞で、内部を通る脊髄を保護している（p.154・図II-1-130）。
4. 棘突起は椎弓から後下方へ突出しており、靭帯や筋肉が付着する部分である。隆椎（第7頸椎）棘突起、肩甲骨下角（第7胸椎棘突起の高さ）、ヤコビー線（第4腰椎棘突起の高さ）といった体表の指標の目安となっている。
5. 頭部の重心は第7頸椎よりも前方にある。頸部が前彎している理由でもある。

【90】	正答	5	II-1-13. 皮膚系—B. 皮膚の役割	第42回 A-8
------	----	---	-----------------------	----------

Point 解説の要点：皮膚固有の受容器をもたない知覚は？

基本

【解説】

皮膚には、1. 触覚、2. 圧覚、3. 痛覚、4. 温覚および冷（寒）覚の5つの基本的な皮膚感覚があり、これらは表在感覚に分類される（p.158）。

5. 振動覚（正答）は深部感覚に分類され、皮膚ではなく、骨膜、筋肉、関節などから伝えられる感覚である（p.96）。